

アリスマー 阿波踊りロボ開発

きょう東京でお披露目

人型でしなやかな動き

鳴門市出身の大田佳宏氏が社長を務める人工知能（AI）関連ベンチャーA r i t h m e r（アリスマー、東京）が、阿波踊りを踊れる人型ロボット「ヒューマノイド」を開発した。しなやかな動きが印象的で、企業のイベントなどで雰囲気盛り上げる。ロボットは中国社製を使い、機械を自律制御する「フ

イジカルAI」を搭載した。女踊りの映像から目や膝、つま先などの動きをデータ化し、仮想空間で女踊りを数万回繰り返して自ら体のバランスを取れるようにした。実際にロボットを起動させてスムーズな手足の運びができるよう改良を重ね、現在では10分以上、同じ場所を継続して踊れる。今後

阿波踊りを披露する人型ロボット「都内



は前進を可能にし、男踊りにも挑戦するという。アリスマーが協業契約を結んでいるあずさ監査法人（東京）の連が24日に東京・神楽坂で開かれる阿波踊り大会に参加するのに合わせ、出陣式でロボットをお披露目する。

大田社長は「阿波踊りには高度なAIが必要だ。後世に残したい踊りの形をロボットが引き継げるので、伝統芸能の保存や継承に役立つ」と話している。

（岸和弘）